

# ストマネ最適化で

管診協  
JGMA 官民で事例、技術共有

管路診断コンサルタン

ト協会（山崎義広会長）

は19日、インテックス大

阪6号館（大阪市）で

「下水道管路ストックマ

ネジメントの最適化」を

テーマにセミナーを開

催。神戸市の取組みのほ

（JGMA）との共催。

冒頭、山崎会長が「管

診協は、管路管理の中核

を担うコンサルタントが

集まる専門技術者集団と

して、国が示す施策を実

現させることを目指して

いる。昨年度から研究機

調に長年力を入れてお

り、満管状態の雨水幹線

で水中ドローン調査を実

施するなどの試みも行っ

ている。こうしたデータ

を実際に活用しているこ

とが同市の特色と山口課

長は話す。污水管では、

式の特性を踏まえた提

案、経営的視点を持った

分流入水での雨天時浸入

水対策の立案を挙げた。

管診協の稲垣裕亮技術

委員と野村誉久技術委員

が点検用カメラ「管診鏡」

を説明し、活用事例を紹

Dサイクル」と題し講演。

手嶋委員は、管路施設の

事故・不具合において蓋

に起因するものが大きな

割合を占めること、台帳

に蓋の属性情報がなく維

持管理情報が整理されて

いないなどの課題を紹

とで、設置年等から構造

や安全性等のさまざまな

情報の把握が容易になる

ことを挙げた。

ストマネの最適化に際

しては、昨年度、国土交

通省が策定した「維持管

理情報等を起点としたマ

ネジメントサイクル確立

に向けたガイドライン

（管路施設編）」に基づ

き、維持管理情報を蓄積

・分析して施設の状態や

リスクを評価し計画反映

と対策につなげる「CA

PDサイクル」の構築が

有効と強調した。

基調講演では、神戸市

待として、分流式と合流

「マンホール蓋のCAP

ンホール維持管理推進委

員会の手嶋泰三委員は